

次世代経営研究会実施報告



マツダの開発部門における業務変革活動 —品質管理および品質工学の考え方の応用—

事業部会経営委員会
次世代経営研究会運営委員会

1. はじめに

2021年2月15日（月）に「次世代経営研究会第2回定例会」をTeamsによるリモートの形式で開催した。参加者は関係者を含めて30名であった。

今回はマツダ(株)車両開発本部首席エンジニアの武重伸秀氏をお招きして、「マツダの開発部門における業務変革活動—品質管理および品質工学の考え方の応用—」の演題でご講演いただいた。各種管理技術は社会問題と連動して進化してきたため、業務変革を実行する上で役に立つ情報がつまっている。これまでの管理技術の変遷を業界動向と対比して整理し、その上で、マツダの開発部門が抱える課題を達成する取り組みについて紹介いただいた。また、講演後にそれを受けてのパネルディスカッションを行った。その概要を報告する。

2. 開会挨拶（椿広計 品質工学会長）

ご多忙の中、ご参加いただき感謝する。設立の趣旨はのちほど谷本運営委員長からお話いただき、私はパネルディスカッションの司会を務める。運営および参加いただいた方、武重氏、折戸氏、須江氏、福原氏に心から感謝する。

次の一手のために必要な知、人材開発の次の一手をどうするか。TQMと品質工学の融合、MOT (Management Of Technology) つまり技術を次世代の経営にどうかすか。管理技術と統計科学がどのように融合してきたか。統計科学自体がICTとの融合の真っ只中にある。品質工学はデータサイエ

ンスにつながる道筋であり、ICTとの融合をめざす管理技術に不可欠である。多様な議論をして次世代経営を目指さないといけない。次の一手を考える機会として多くの人に活用いただきたく、有意義な議論を期待している。

3. 本研究会の設立趣旨（谷本勲 次世代経営研究会運営委員長）

椿会長からお話があったが、思いは一緒である。前回例に挙げた3000人の型工場の話は、言葉だけでなく本当にスピードを上げるために型工場に投資しているという世の中の変化に驚いたわけである。その変化の起源が東西冷戦の終結による世界の構造変化であった。東西の壁がなくなり、グローバル化、つまり先進国だけでなくいろいろな場面で商品が使われるようになった。もう一つがデジタル化、アメリカが公開したデジタル通信の時代に突入して、商品の多用化、軽さゆえの商品の進化が起り、商品開発のスピードが必要になった。商品寿命が短くなり、開発した商品が短期間に時代遅れになる、つまり、技術の資産価値が低下したため、同じ期間とコストを技術開発にかけては駄目になったわけである。

経営には、世の中の変化がどうわれわれに影響するかという大きな認識が必要である。それを、社内の状況を考慮して中期計画あるいは長期計画に反映させる。そのためにはいろいろな知識、考え方が大きな力になる。社内ではいろいろな議論していると言うが、同じ価値観の社内の議論ではいけない、いろい